

論文

障がい児の母親に対するピアサポートの有用性について

About the usefulness of peer support for mothers of special needs children

上地 玲子¹⁾・松浦 美晴²⁾

Reiko Kamiji・Miharu Matuura

キーワード：障がい児，母親，ピアサポート

Key Word: special needs children, mothers, peer support

はじめに

障がいのある子どもを育てる母親にとって、周囲からのサポートは重要である。行政による出産後の最初のサポートとしては、平成 26 年から実施されている「乳児家庭全戸訪問事業(通称：こんにちは赤ちゃん事業)」が挙げられる。この事業は、生後 4 ヶ月までの乳児のいるすべての家庭(里親家庭及び小規模住居型児童養育事業を含む。)を訪問し、(1)育児に関する不安や悩みの傾聴・相談、(2)子育て支援に関する情報提供、(3)乳児及びその保護者の心身の様子及び養育環境の把握、(4)支援が必要な家庭に対する提供サービスの検討、関係機関との連絡調整などの支援を行っている。訪問者は、保健師、助産師、看護師などの医療系有資格者以外に、保育士、母子保健推進員、愛育班員、児童委員、母親クラブ、子育て経験者らも登用され、研修を受けたうえで訪問活動を行っている。

また、同様の障がい児を育てている保護者である“仲間”によるサポートも重要な役割を果たしている。東村(2006)は、地域の障がい児親の会の意義として、①親の多様な経験がグループとして蓄えられ、アドバイスに生かされていること、②親にとって必要な時に頼れる「基地」となっていること、③外部の親にも情報を発信し、親と関係者をつなぐ取り組みを行っている点に有用性を見出した。石本ら(2008)は、専門機関よりも同様の障がい児を育てている母親や家族などの身近な人からのサポートが有用であると母親らが認知していたことを明らかにした。

行政と家族会によるサポートが充実することは、障がい児の母親にとっては、非常に有用である。行政と家族会との連携活動は各地域で展開されている。例えば、岡山市では、「ともに育むネットワーク(ともネット)」がある。岡山市保健所健康づくり課母子歯科保健係が中心となって、さまざまな障がいや病気をもった子どもを育てている岡山市内の保護者のグループ(自主的に構成しているゆるやかなネットワーク)で、グループ相互の理解

1) 2)山陽学園大学総合人間学部生活心理学科

と交流により共に協力して子どもを健やかに育てることを目的としており、2か月に1回、構成する団体が参加して勉強会や交流のための会合を開くほか、グループ紹介のための展示や、講演会、シンポジウムも開催している。

そこで、本研究では、これまでの研究において障がい児の子育てをする仲間によるサポート体制をどのようにとらえているのかを整理し、障がい児の母親に対するピアサポートの有用性について検討する。「ピアサポート」とは「ピア(peer)」＝「仲間」によるサポートのことであり、アルコール依存や精神障がい者によるサポート活動や、教育分野における小中学生によるサポート活動などが展開されている。本研究における「ピアサポート」やその他の類するものは、障がい児を育てている母親によるサポート活動として位置付ける。

方法

「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)を用いて文献検索を行った。障がい児の親による「ピアサポート」「ピアカウンセリング」など、さまざまな表現で研究を行っているため、まずはどのような用語で研究しているのかを整理した。最終確認は、2022年1月15日であった。発表期間を2011年から2021年までの10年間とし、検索条件として全文の検索キーワードで「障害児」＋「ピアサポート」、その他では「ジャーナル」「日本語」「査読あり」「人文・社会科学系」「医学・保健衛生系」を設定した。同様に、検索キーワードを「障害児」＋「ピアカウンセリング」、 「障害児」＋「ペアレント・メンター」などの類似用語で調べた。なお、内容は同じ障がい児を育てている母親によるサポート活動のものを抽出した。

また、用いられている言葉について定義しているものや、有用性について言及しているものについても調べた。

結果

同じ障がいを持つ先輩の母親による支援活動については、Table1の通りであった。

「ペアレント・メンター」という用語を用いた研究では、発達障がい児を育てている親が研修を受けて信頼できる相談相手として役割を担うことを示している。この研修は日本ペアレント・メンター協会や親の会、行政などが展開しており、統一した資格ではない。原口ら(2015)は、

「ピアサポート」と「ピアカウンセリング」については、明確に定義をしているものはなかったが、障がい児を育てている先輩の母親による傾聴を中心とした活動を示しているものが多かった。

「ピアサポート」「ピアカウンセリング」「ペアレント・メンター」という名称によるサポート活動は、いずれも有用であったという内容が多かった。

Table.1 有用性について言及しているもの(支援活動名称別, 年代順)

支援活動の名称	提唱者	支援活動の定義	支援者側の資格・研修等の記載	有用であった内容
ピアサポート	山本ら(2012)	記載なし	記載なし	問題が対処可能なものと感じられるようになる
	廣田ら(2012)	記載なし	記載なし	養育者の精神的フォロー
	古谷ら(2016)	記載なし	記載なし	子どもの重症度が高いほど身体的負担感が増すが, その分ピアサポートなどで支え合う
	松井ら(2016)	同じ悩みを持つ母親	記載なし	ロールモデルに出会い, 支えあうことで障がい児の子育ての適応を促し, 自らロールモデルへと成長
	萩原ら(2019)	記載なし	記載なし	孤独への回避につながったり, 安心感や落ち着きを与えてくれる
	藤原(2019)	記載なし	記載なし	同じ障がい児の母親による育児や家族計画に関する情報交換
	加藤ら(2020)	当事者会	記載なし	生きづらさの共有, 障がい特性を意識しながら社会の中でどのように振る舞うかを具体的に話し合う
	有田ら(2020)	同じ障がいのある子どもをもつ親の会等	記載なし	互いに経験を語り合い, 気軽に相談をし合うことができる場を求めている
ピアカウンセリング	東村(2006)	仲間同士のカウンセリング	記載なし	多様な経験によるアドバイス, 頼れる「基地」, 外部とつなぐ役割
	河津ら(2014)	記載なし	記載なし	ストレスの強い母親は, 胎児検査中やその後に相談希望
	井上ら(2020)	記載なし	記載なし	障がいを持っている母親同士の出会い
	西方ら(2020)	同じ障がい児の母親	記載なし	同じ経験を持つ仲間がアイデンティティ獲得のための支持基盤となった
ペアレント・メンター	原口ら(2015)	自身が発達障がいのある子どもをもち, 一定の研修を受け, 同じような発達障がいのある子どもをもつ親に対する支援	るペアレント・メンター養成研修	相談技術をもった親は地域における家族支援の大事な資源だが, 養成研修の内容が統一されていないあったり, 研修後のメンターの活動が少ない。
	虫明ら(2016)	同じ経験のある親	記載なし	母親の障がい受容を促進
	西嶋ら(2019)	発達障がい児を持つ親がトレーニングを受け, 支援する	自閉症協会や発達障害者支援センターの研修	就学前の親が相談を希望することが多い。相談をする親は将来メンター役割を希望している。

検索キーワードによる文献数については、Figure1 のようになった。

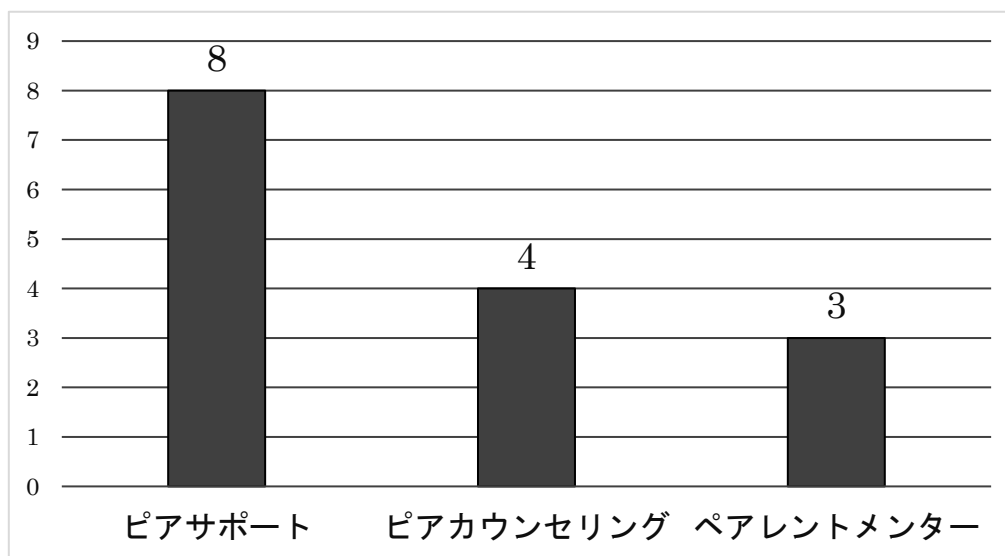


Figure1. J-STAGE 検索結果 (2011 年から 2021 年まで)

考察

表現の違いがあるものの、障がい児を育てている母親にとって、同じ障がい児を育てている母親からのサポートは有用であるという内容で研究報告がまとめられており、母親同士のサポートが否定的であるという報告はなかった。

「ペアレント・メンター」という役割を担うための研修制度は複数の団体で行われているが、研修内容が団体間で統一されていないため、内容が充分であるかどうか不明である。また、発達障がい(自閉症)に限定した認定制度であるため、他の障がいや難病のある者への活用が難しい。

一方、「ピアサポート」「ピアカウンセリング」という名称については、障がい種を特定しているものではなく、幅広く使われている。しかし、研修制度はほとんど確立されていない。一部の団体では、難病患者の家族や支援者を対象にした研修を実施している。岡山県内での研修としては、公益社団法人岡山県健康づくり財団 岡山県難病・相談支援センターにおいて「ピア・サポート研修会」と称して、初級コースと中級コースを実施している。またその延長上に、別団体である岡山県難病団体連絡協議会が上級コースを実施している。また、日本ダウン症協会では「相談員」という名称で、高校生以上のダウン症のある子どもを育てている親を対象に年 1 回、1 泊 2 日の研修を行い、電話相談などの対応を実施している。

以上の結果からは親から親への支援について否定的なものはなかったが、「ママ友」文化においては否定的な場面が露見しやすい。井梅ら(2014)は、約 30%の母親がママ友との関係でトラブルを経験しており、トラブルを経験していない群と比べて、子育てで不安や負担感が有意に高く、対人関係の様相が不安定であることを明らかにしている。さらに木田ら(2020)は、ママ友の存在がポジティブになったりネガティブになったりして安定した関係性ではないことを示唆した。したがって、単なる「ママ友」ではなく、支援が必要な子ども子育てをサポートする役割としてしっかりと位置付けておくことが望ましいと考えら

れる。しかし、いずれにしてもメリットとデメリットがあり、デメリットが発生しないシステム作りが必要である。

障がい児を育てる親にとっては、専門機関だけではなく、仲間によるピアサポートは非常に有用であると考えられる。しかし、サポート関係が単なるママ友になってしまうと、不安を増加させ、団体からの脱退をする機会となり、孤立を深めることにつながる懸念がある。安定した支援体制を整えるのは家族会任せでは難しいため、Table2のように専門機関や行政側が家族会と連携し、一定のスキルを身に着けるための研修体制を整えることが必要である。

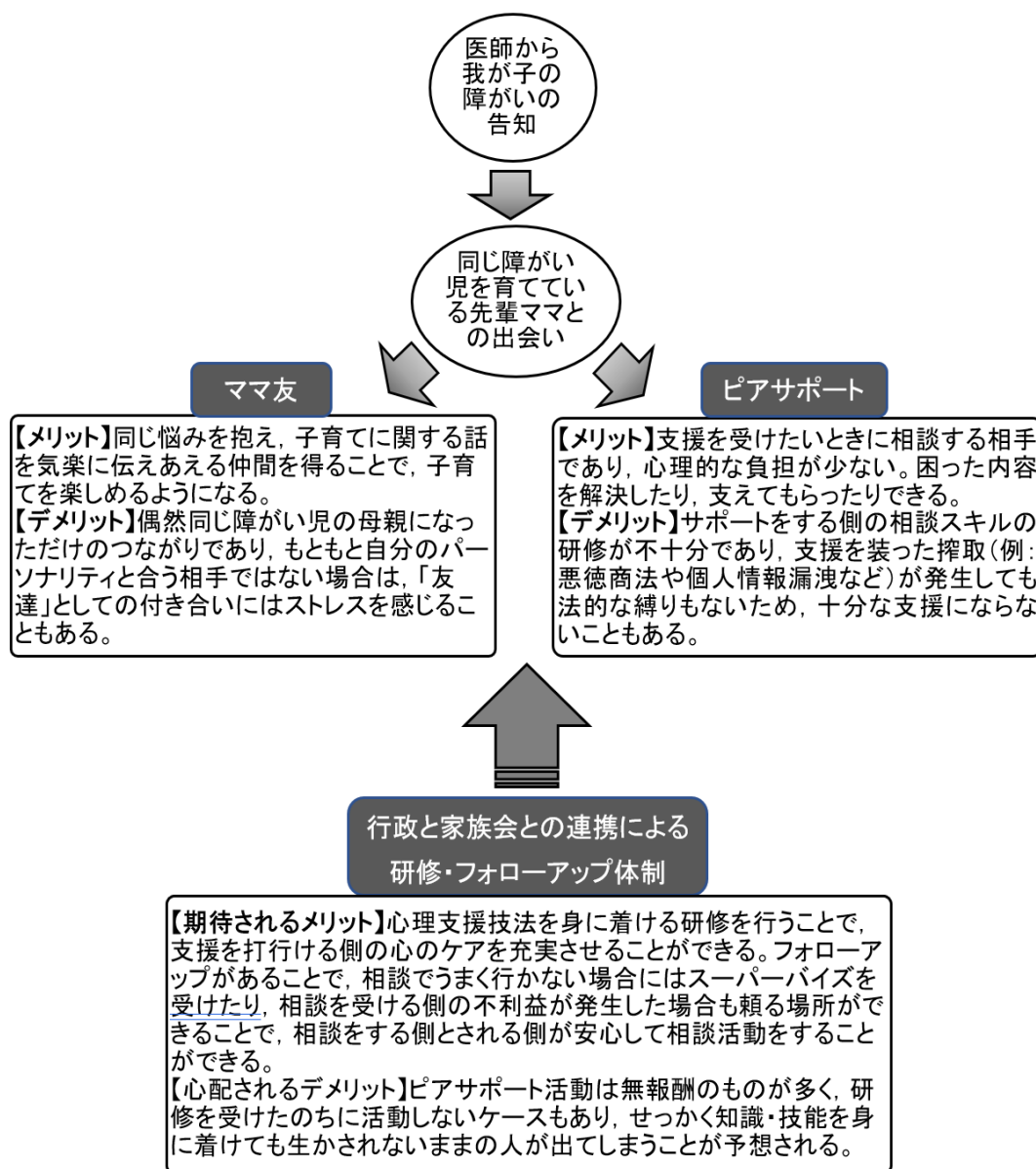


Figure2. ピアサポート活動を支えるシステムイメージ

文献

- 有田愛莉・平野美千代(2020).吃音がある子どもに対する関わりの中で親が抱く思い—子どもへの支援的な関わりを通して—.日本公衆衛生看護学会誌,**9**(2),72-80.
- 藤原紀世子・相原ひろみ(2019).重症心身障害児(者)とその次子をもつ母親の思い.日本小児看護学会誌,**28**,95-100.
- 古谷幸子・山崎喜比古・宍倉啓子(2016).在宅重症心身障害者の母親における子の将来への期待および「生活の質」とその関連要因に関する研究.日本重症心身障害学会誌,**41**(3),379-391.
- 萩原可那子・奥田訓子(2019).障害のある子どもをもつ母親の障害受容に関する研究. *Journal of Health Psychology Research*, **31**,253-258.
- 原口英之・加藤 香・井上雅彦(2015).わが国におけるペアレント・メンター養成研修の現状と今後の課題.自閉症スペクトラム研究,**12**(2),63-67.
- 廣田真由美・永田智子・戸村ひかり・村嶋幸代(2012).重症児の在宅支援に向けた課題：重症児とその養育者が退院に向けて受けた支援と退院後の問題についての考察.日本地域看護学会誌,**14**(2),32-42.
- 東村知子(2006).障害をもつ子どもの親によるピアサポート.ジャーナル「集団力学」,**23**,69-80.
- 石本雄真・太井裕子(2008).障害児をもつ母親の障害受容に関連する要因の検討—母親からの認知,母親の経験を中心として—.神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要,**1**(2),29-35.
- 井上大嗣・森山 薫・松尾光弘(2020).親子入院による小児在宅支援の取り組み.脳と発達,**52**(6),419-421.
- 井梅由美子・藤後悦子(2014).成人期女性の対人関係のトラブルとストレス—子育て期の子どもを介した対人関係に着目して—.東京未来大学研究紀要,**7**,177-187.
- 公益社団法人岡山県健康づくり財団 岡山県難病・相談支援センター
<https://www.okakenko.jp/nanbyou/> (2022.1.20)
- 加藤まり・門間晶子・山口知香枝(2020).知的障害を伴わない自閉症スペクトラム障害(ASD)がある母親の子育て—中学生までの子どもを育てる経験—.日本看護研究学会雑誌,**43**(2),163-175.
- 河津由紀子・植田紀美子・畠 信・石井 陽一郎・満下紀恵・川滝元良・高木紀美代・竹田津未生(2014).先天性心疾患の胎児診断における母親への心理的影響：多施設調査結果報告.日本小児循環器学会雑誌,**30**(2),175-183.
- 木田千晶・鈴木裕子(2020).母親間の人間関係が構築されるプロセス—専業主婦における「ママ友」に対する捉え方を通して—.子育て研究,**10**,15-28.
- 松井藍子・大河内彩子・田高悦子・有本 梓・白谷佳恵(2016).発達障害児をもつ親の会に属する母親が子育てにおける前向きな感情を獲得する過程.日本地域看護学会誌,**19**(2),75-81.
- 虫明淑子・高橋敏之(2016).幼稚園教育における子どもの成長発達を考慮する親支援の事例研究—交換日記にみる母親の障害受容の過程—.保育学研究,**54**(3),20-31.

- 西嶋真理子・西本絵美・齋藤希望・柴 珠実・増田裕美・達川まどか・仲野由香利(2019).療育機関に通所する発達障害児の親が感じる困りごととペアレント・メンターへの相談希望に関連する要因.日本地域看護学会誌,**22**(3),34-43.
- 西方浩一・小田原悦子(2020).障害のある子どもと母親の社会参加 Interaction の視点から.作業科学研究,**14**(1),31-40.
- 日本ダウン症協会 <https://www.jdss.or.jp/> (2022.1.20)
- 日本ペアレント・メンター協会 <https://parentmentor.jp/>(2022.1.20)
- 岡山県難病団体連絡協議会 <https://nanbyouren-okayama.com/> (2022.1.20)
- おかやま子育て応援サイト「こそだてぽけっと」障害や病気と向き合い、ともに歩もう～身体障害・疾患・発達障害支援グループの紹介～ <http://www.okayama-tbox.jp/kosodate/pages/42017>(2022.1.20)
- 山本真実・門間晶子・古澤亜矢子・大橋幸美・森 阿紀子・浅野みどり(2012).自閉症スペクトラム障がいの子どものもつ母親たちの支え合いー「仲間を勇気づけるレッスン」ー.日本看護研究学会雑誌,**35**(5),35-43.

ⁱ 本研究では、「障害」の漢字を使用せず「障がい」と表記する。

